「授業備品」NO 291 7.9.27 教師「個」から全子ども教師が運営する校内研修

1 教師「個」に任せすぎる校内研修の課題

校内研修の課題は、授業自体が教師の「個」の作業で済ませていることだ。これまで、教師が授業案を考え、 分化会等で吟味し、授業に臨む。事後は、研究協議会。一人の教師が考えたことが、協議会まで評価をしていく。 この当たり前の授業研究に複数の課題がある。改善の鍵は、学習指導案や研究協議会へ他学級や他学年の子ども が参加することであろう。教師も子どもも「全体」で最初から校内研修の運営を担うことが重要である。

2 一教師「個」が創る学習指導案から、全子ども参加型の学習指導案へ

一人の教師が創る学習指導案では、授業者の「癖」が出やすい。教師全体で事前に指導案を作成しても、最後は教師「個」に戻すため教師の指導方法の癖は直らない。そこで、子どもも教師が一緒になり、授業のスタートから評価まで行うことを再度、提案したい。このことについては、授業備品 284(学び方授業評価シート)、285(子どもと教師が創る学習活動案)、287(自分の学習課題作り)、290(研究冊子は子どもと教師の合作)とあわせて紹介をしてきたので、こちらも参考にされるとよい。

3 全校の子どもが授業評価に参加する

これまで、校内で授業があれば、当該学級の子どもも授業評価に参加することがあった。「子ども研究協議会」だ。だが、該当する子どもだけの参観や研究協議会であったため、十分な授業評価が出来なかった。これまでの慣習になっていたためであろう。そこで、全校の子ども参加型の授業評価会にすることがとよい。他学級の教師が授業後の研究協議会に参加すると同じ方法だ。

一教師が行った授業後の授業反省会 → 他学級(異学年も含む)の子どもも参加する授業反省会へ (1) 教師の授業評価 (SWOT 分析法)

- ・目指す子供像から気付いたことを付箋に記入(青:子どもの輝いている姿 赤:子どもの停滞している姿)
- ・参観教師は、授業中に付箋紙に記入。協議会で使えるようにしておく

テーマ:子供全員が自分の考えを伝えることが出来ていたか	
成果	課題
+を+にするためには?	+が、これ以上+にならないのはなぜか?
<i>−を</i> +にするためには?	ーが+にならないのはなぜか?

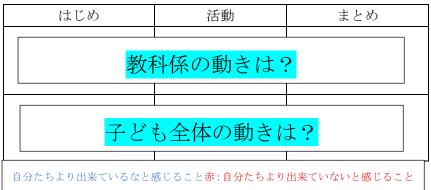
(2)授業学級の子ども

- ・振り返りを記入(毎回変えていくが、学び方(スタンダード)について評価をする)
- (3)参観する他学級・他学年の子ども
- ・授業見学中は、付箋紙に書きながら見学する
- ・授業後は、「教科係(全生徒が事前に担当する教科を決めておく)が見学した仲間に付箋紙貼りとグルーピング を指示する

「自分たちで明日からやれそうなこと」について確認する。

青:自分たちより出来ているなと感じること赤:自分たちより出来ていないと感じること

- ・子どもの教科係がグルーピングした内容について話す
- ・○○教科用模造紙



(4)教師のグループリーダー

子どもに教科係の動きや資料から、気付いたことの話をする。

付箋に記入する内容(できるだけ、授業態度にならないように)

青:自分たちより出来ているな

と感じること

赤:自分たちより出来ていない

と感じること

横須賀市N中学校冊子から